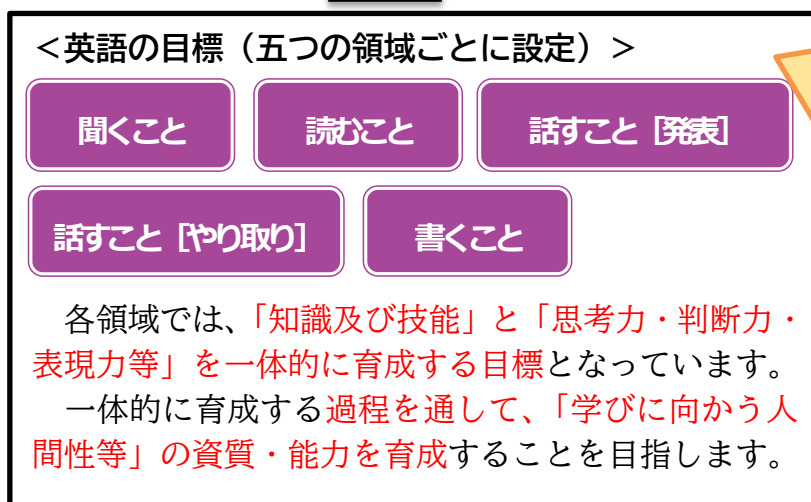
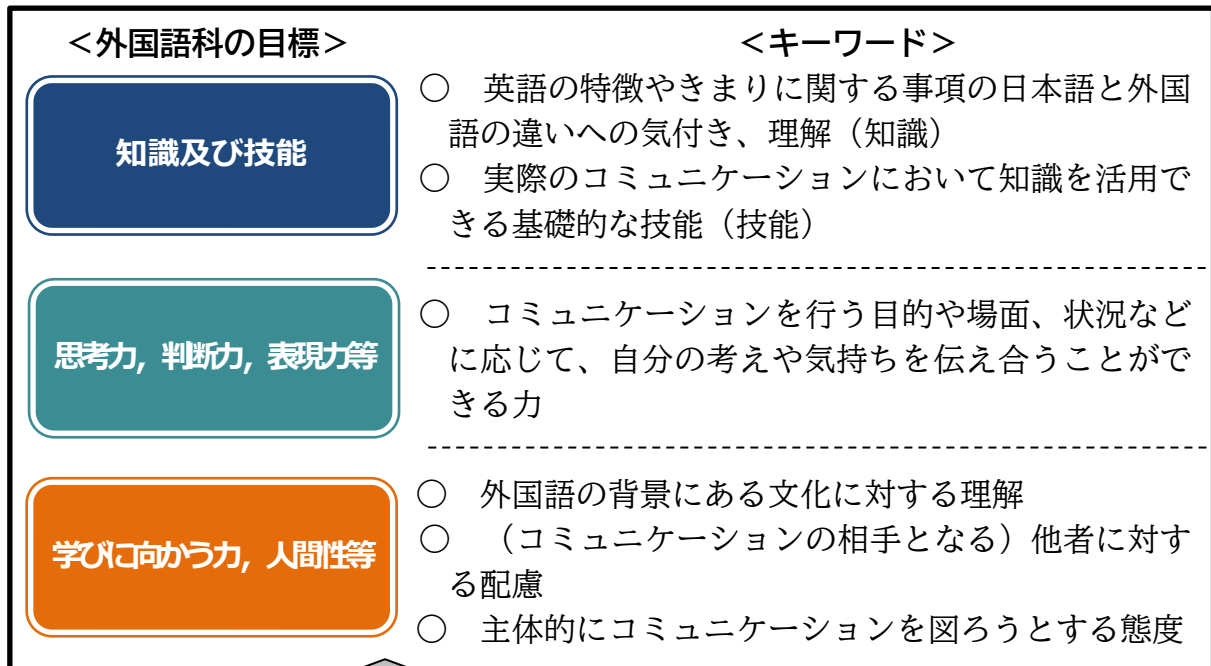


小学校外国語科 ～指導と評価の一体化に向けて～

山形県教育庁義務教育課

2年間の移行期間を経て、いよいよ小学校第3・4学年で外国語活動、第5・6学年で教科として外国語科が全面実施となります。新たに教科となる外国語の指導に、まだ不安を感じている先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで今回は、小学校第5・6学年の外国語科における「指導と評価」について理解を深めていきましょう。

1 外国語科における目標の考え方



外国語科の目標に示された三つの資質・能力を育成するために、領域ごとの目標実現を目指して指導していきます。

指導においては、「言語活動を通して」資質・能力を育成することを目指しましょう。

Q. 「言語活動」とは？

- A. ①自分の考えや気持ちを伝え合う活動
②コミュニケーションを行う目的・場面・状況のあるもの

チャンツや歌などは、言語活動を成立させるために必要な「練習」です。「練習」で終わらず、「言語活動」のある授業づくりを工夫しましょう。

2 学習評価の考え方

目標の実現を目指すうえで、それに向けた指導と同様に大切になるのが、「学習評価」です。特に、小学校第5・6学年の外国語科で、「評価」は数値による評価を行うこととなります。すべての教科において、目標に照らした評価の観点は次のとおりです。



外国語科では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三観点を、五つの領域ごとに評価します。

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	観点別 評価	評価
知識・技能	a	a	b	a	b		
思考・判断・ 表現	a	b	b	a	b		
主体的に学習に 取り組む態度	a	b	b	a	b		

一つの単元で、**全ての領域・観点について記録に残す評価を行う必要はありません。**
※ただし、各単元で、3観点をバランスよく見ることが重要です。

指導要録に記載
(学年末)

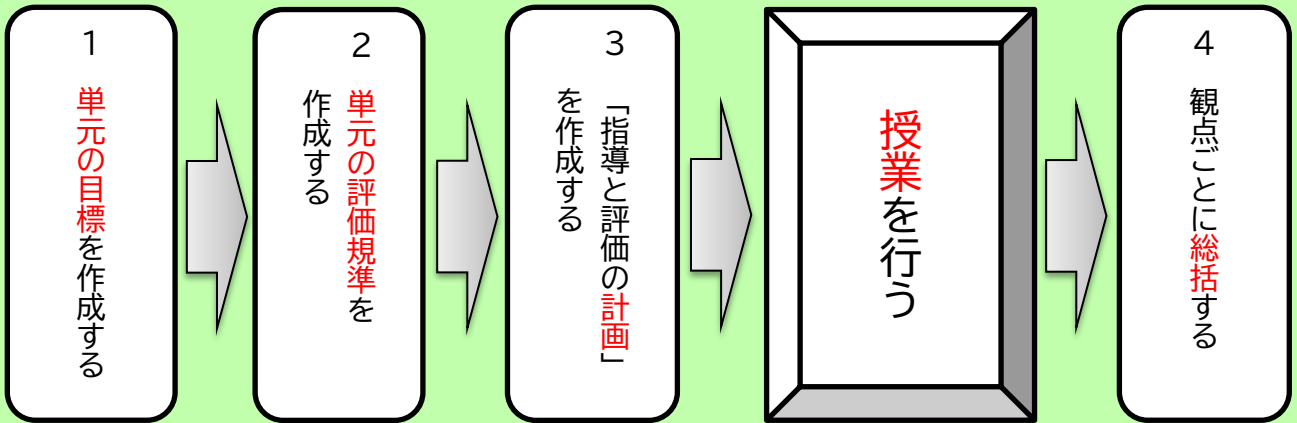
各観点では、どのような状況の評価するのでしょうか。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 英語の特徴やきまりに関する事項の理解（知識） 実際のコミュニケーションにおいて、知識を活用する技能（技能）
思考・判断・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、既習語句や表現を使って、話される内容を理解したり、自分の考えや気持ちを表現したりしている
主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 英語で自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさなどを実感しながら粘り強く学習に取り組み、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度 将来英語が必要な場面で自ら英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度

3 指導と評価の計画

各単元における評価を実施するに当たり、進め方の一例を紹介します。なお、複数の単元にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない例もあります。

<評価の進め方>



ここから、具体的な事例（『We Can! 1』）に沿って評価の進め方のポイントを示していきます。（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 参照）

<1 単元の目標を作成する>

単元名 We Can! 1 Unit 2 「When is your birthday?」 (第5学年)	関係する内容のまとめ 「聞くこと」 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 「話すこと [やり取り]」 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 「書くこと」 ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。
---	--

学習指導要領の目標や内容を踏まえて、単元の目標を作成する。

※全ての領域を指導・評価しようとするのではなく、重点化することも重要

1 単元の目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。

※なお、本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

コミュニケーションを行う目的・場面・状況を設定する。

= 「思考・判断・表現」の評価には必須
※なんのために？どんなことをする？

・記録に残す評価 = 評定の材料として残す

・記録に残す評価内容を絞る
→ 指導の重点化につながる

< 2 単元の評価規準を作成する >

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p><知識> 月日の言い方や、I like / want ~. Do you like / want ~? What do you like / want? When is your birthday?、その答え方について理解している。</p> <p><技能> 誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取っている。</p>	<p>相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ろうとしている。</p>
話すこと「やり取り」	<p><知識> 月日の言い方や、I like / want ~. Do you like / want ~? What do you like / want? When is your birthday?、その答え方について理解している。</p> <p><技能> 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、I like / want ~. Do you like / want ~? What do you like / want ~? When is your birthday? 等を用いて、考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>

○ <知識>と<技能>を分けて書く

○ <知識>は、具体的にどのような英語の特徴やきまり（言語材料）を理解している状況か

○ <技能>は、その知識を活用して何をできる技能を身に付けている状況か

○ 「思考・判断・表現」を評価するための目的・場面・状況がある

○ 基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価する

< 「主体的に学習に取り組む態度」について >

- ・児童の挙手の回数などを評価するのではない
- ・「主体的に学習に取り組む態度」だけを取り出して評価することは行わない
- ・学習活動を通して身に付けた態度を評価する
= 単元の導入時や各授業の冒頭で評価は適切ではない

< 3 「指導と評価の計画」を作成する >

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を一部省略して作成)

時	目標◆・活動○	評価			
		知技	思判表	態度	評価規準 <評価方法>
1	◆月の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○Small Talk：好きな季節や月 ○Let's Watch and Think 1 など	<p>☆記録に残さない活動や時間も、児童の学習状況を確認する</p> <p>☆十分に指導を行ってから、記録に残す評価を</p>	聞	聞	★本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
2	◆月名を聞いたり言ったりすることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○Small Talk：誕生日と誕生日プレゼント ○Let's Chant：Twelve Months など				★本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
3	◆誕生日や好きなものを聞き取ることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○Small Talk：誕生日と誕生日プレゼント ○Let's Chant：When is your birthday? など				★本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
4	◆誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取ったり、それらについて尋ねたり答えたりして伝えたりすることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○Let's Chant：When is your birthday? ○Let's Watch and Think 4 ○指導者の誕生日についての短い話を聞き、聞き取ったことをワークシートに記入する。 など				★本時では、「話すこと [やり取り]」については、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
5	◆相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○Activity 2：プレゼントしたいものの絵を描いてバースデーカードを完成させる ○Let's Watch and Think 5：デジタル教材を視聴して、Laksh について分かったことをテキストに書く。 など				★コミュニケーションを行う目的・場面・状況があるから、「思考・判断・表現」の評価ができる

「聞くこと」の記録に残す評価
◎指導者の誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取っている。
<行動観察・ワークシート記述分析>

「聞くこと」の記録に残す評価
◎相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取っている。
◎相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ろうとしている。
<行動観察・テキスト記述分析>

6	<p>◆自分のことをよく知ってもらったり相手のことを知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。</p> <p>○Small Talk：好きなもの、欲しいもの</p> <p>○Let's Read and Write</p> <p>○Activity 2 ：バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれてあることについてやり取りする。 など</p>	や		<p>☆「話すこと」の「知識・技能」は、使用する言語材料の提示がない状況で伝え合ったり話したりする技能を身に付けているかを評価する</p> <p>「話すこと [やり取り]」の記録に残す評価</p> <p>◎誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。 <行動観察></p>
7	<p>◆自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。</p> <p>○Let's Chant：When is your birthday?</p> <p>○Activity 2 ：バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに係れていることについてやり取りする。 など</p>	や	や	<p>「話すこと [やり取り]」の記録に残す評価</p> <p>◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。</p> <p>◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。 <行動観察></p>

<指導と評価のポイント>

☆ 記録に残す評価を行うまでに、児童が「b」の規準に達するよう指導をしていることが重要です。

= 児童ができるようになった状態を評価する

☆ 例えば、欲しいものなどについて聞き取りが十分でない児童がいる場合に、その児童に再び尋ね表現を理解させるようにしたり、教師が好きなものや欲しいものを表現してから尋ね、やり取りの中で定着を図ったりする。

= できていない児童へのフォローを忘れずに
(評価の場面は1回で終わらない)

「学習評価は児童の自信を付けるもの！」

< 4 観点ごとに総括する >

※ここでは、「聞くこと」における評価の総括について例を示します。

評価観点	知識・技能	(知識・技能)		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価場面	第4時	(第5時)		第5時		第5時	
評価方法	行動観察・ワークシート記述分析	行動観察・テキスト記述分析	総括	行動観察・テキスト記述分析	総括	行動観察・テキスト記述分析	総括
評価規準	指導者の誕生日、好きなもの、欲しいものを聞き取っている。	相手の誕生日、好きなもの、欲しいものを聞き取っている。		相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取っている。		相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ろうとしている。	
児童1	b	-	B	c	C	c	C
児童2	c	(b)	B	b	B	b	B
児童3	b	-	B	a	A	a	A

同じ活動で合わせて評価

児童2について、第4時の評価は(c)であった。第5時で改善が見られたため、その見取りを「知識・技能」に加味して(b)と判断し、本単元での「聞くこと」における「知識・技能」の総括を「B」とした。

= (c) と判断して終わらず、指導改善・学習改善を継続的に行う。

< 指導者の発話例 >

Hello, everyone. My birthday is September 28th. Look, this is my bag. (実際にかばんを見せて) It's old and small. I want a new big blue bag. I like blue. So, I want a new big blue bag for my birthday.

< 評価例 >

児童1: 「たん生日: 9月28日」「好きな色: 青色」「ほしいもの: 青いかばん」と書いていたので、「おおむね満足できる」状況(b)と判断した。

児童2: 「たん生日: 8月28日」「好きな色: 青色」「ほしいもの: 小さいかばん」と書いていた。月名とほしいものの聞き取りが正確さにかけていることから、「努力を要する」状況(c)と判断した。

< ワークシート例 >

○先生の話聞いて、たん生日や好きな色、ほしいものを書きましょう。



たん生日

好きな色

ほしいもの